

(第3種郵便物認可)

不申 戸 業所 厚早

2021年(令和)

「お米甲子園」昨年全国2位の千種高

日本一目指し 生徒ら稲刈り

生徒が育てた米が昨年の「全国農業高校お米甲子園」で全国2位に当たる金賞を受けた千種高校（兵庫県千種町千草）でこのほど、同高生と地元の小中学生が合同で稲刈りをした。刈り取った米は今年も「お米甲子園」に出品して全国1位を狙うとともに、学校給食を通じて小中学生にも味わってもらおう。（日本経済）

粟 同高は給食が導入された2017年、同高は今年も良質の米を食育の一環として授けられた。地元住民らの指導を受け、同高のすぐ東にある農地でコンヒカリを栽培する。昨年、味の評価をしてもらおうと試みに「お米甲子園」に出品したところ、

秋の稲刈りシーズンを迎える。同高は今年も良質の米を食育の一環として授けられた。地元住民らの指導を受け、同高のすぐ東にある農地でコンヒカリを栽培する。昨年、味の評価をしてもらおうと試みに「お米甲子園」に出品したところ、180点から2位に輝いた。



一緒に稲を刈る千種高校生と千種小児童＝兵庫県千種町千草

1年生38人と地元小中生 学校給食で提供へ

え、9月24日には田植えと同じメンバーが集い、高校生と小中学生が2人一組になって鎌で稲を刈った。時間がたつにつれて小中学生の手際もよくなり、脱穀に回す稲の束がどんどんたまっていった。

同高1年の大久保未紅さん(16)は「小学生はこちらがあまり教えなくても作業ができていた。楽しんでもらえてよかった」、機械がなかった昔の人の大変さも分かった」と汗を拭いた。

同小3年の船岡明日花さん(8)は「刈るときに雑草が倒れかかると大変だった。お米でおいしいおにぎりを食べたい」と笑顔だった。

刈り取った稲は教職員が脱穀、乾燥させ「お米甲子園」に出品。11月下旬に結果が発表される。米は22年1月にちくさ学校給食センターに寄贈され、2月の給食で小中学生に提供される予定。